

科学研究費助成事業（基盤研究（S））事後評価

課題番号	18H05272	研究期間	平成30(2018)年度～ 令和4(2022)年度
研究課題名	RNA修飾の変動と生命現象	研究代表者 (所属・職) (令和6年3月現在)	鈴木 勉 (東京大学・大学院工学系研究科 (工学部)・教授)

【令和6(2024)年度 事後評価結果】

評価		評価基準
	A+	期待以上の成果があった
○	A	期待どおりの成果があった
	A-	一部十分ではなかったが、概ね期待どおりの成果があった
	B	十分ではなかったが一応の成果があった
	C	期待された成果が上がらなかった
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、研究代表者らが立ち上げた RNA の化学修飾を網羅的に同定する分析系を用いて、RNA 修飾の制御とその生理的な役割を明らかにすることを目的としている。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>RNA 修飾の網羅的な同定方法を用いて RNA 修飾分析し、さらにそれらの生理学的意義を明らかにしている。特に中間評価後に様々な tRNA 修飾についてそれぞれの生理学的意義や新しい機能を多く見だし、それらの結果を多くの学術論文にまとめて発表していることは高く評価できる。今後は RNA 修飾が様々な刺激に対する細胞内応答によるメタボライドセンサーとして機能すること、あるいはその破綻によって引き起こされる疾患との関係について明らかになることが期待できる。</p>		